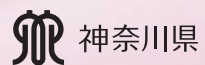


あ
り
が
ど
う
を
届
け
た
い



かながわ感動介護大賞実行委員会

福祉子どもみらい局福祉部高齢福祉課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-1111 (内線:4837)



ともに生きる社会
かながわ憲章

KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

Instagram ID: かながわ憲章【公式】

かながわ憲章

検索



受賞作品の
ドキュメンタリー動画を
Webで公開しています



神奈川県
「認知症の人と
家族を支えるマーク」



第12回 かながわ感動介護大賞 作品集

かながわ感動介護大賞実行委員会

付 録
第11回
最優秀賞作品
漫画化!!

はじめに

おかげさまで、第12回を迎えた「かながわ感動介護大賞」。

今年も、高齢者の方やご家族、介護職員の方々から、たくさんのエピソードを寄せていただきました。

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へと移行してから2年が経とうとしているところですが、介護職員の皆さんには、今も緊張感をもって、日々、一生懸命業務にあたっているところだと思います。

こうした中、「介護フェアinかながわ」で、受賞された方にお目にかかり、表彰式を挙げてきたことを、嬉しく思います。

介護の仕事は、介護を必要とするお一人おひとりに寄り添い、その人らしい生活に向けた支援を通して、その方の生きる喜びと一緒に作り出していく仕事です。

また、普段の会話やふれあい、お互いの何気ない心遣いを通じて、感謝ややりがい、感動が生まれる魅力ある仕事です。

介護を必要とする人、介護に携わる人を社会全体で支え合うために、介護の仕事の魅力を、より一層多くの方々に知っていただき、介護の仕事への理解が進んでいくことを願っています。

この作品集は、介護現場の様々な場面を通じた仕事の醍醐味にあふれています。作品を通して、介護の仕事の素晴らしさを改めて感じていただければ大変嬉しく思います。

皆さんとともに介護の仕事が笑顔の「介護文化」として定着し、この作品集をお読みいただいた方々に介護の仕事の魅力を感じていただければ幸いです。

かながわ感動介護大賞実行委員会（構成団体）

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
一般社団法人神奈川県高齢者福祉施設協議会
一般社団法人神奈川県老人保健施設協会
一般社団法人かながわ高齢者住まい連絡協議会
公益社団法人横浜市福祉事業経営者会
川崎市老人福祉施設事業協会
公益社団法人神奈川県社会福祉士会
公益社団法人神奈川県介護福祉士会
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
公益財団法人神奈川県老人クラブ連合会
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
株式会社テレビ神奈川
株式会社神奈川新聞社
横浜エフエム放送株式会社
神奈川県

かながわ感動介護大賞 表彰選考会委員（〇…座長）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 副会長…………… 山崎 智美
公益社団法人神奈川県介護福祉士会 会長…………… コッシュ石井 美千代
一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 副理事長…………… 小藪 基司
神奈川県介護福祉士養成校連絡協議会 …………… 石島 美紀
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 准教授…………… 〇大島 憲子
東海大学教育開発研究センター 准教授…………… 御領 奈美
田園調布学園大学 准教授…………… 増田 いづみ

作品目次

最優秀賞	「西陽のあたる玄関」……………	1
優 秀 賞	「私の大切な心得」……………	3
	「たわいもない話」……………	5
	「自身に起きた奇跡」……………	7
	「感謝にあふれた母の人生の最期」……………	9
	「思い出すのは」……………	11
佳 作	「連絡帳が気づかせてくれたこと」……………	13
	「念願だった孫の結婚式に出席できた父」……………	14
	「デイサービスは神様です」……………	15
	「楽しい人生になったよ。ありがとう」……………	16
	「笑った!」……………	17
	「最後までお酒を愛し、笑い声を絶やさなかった祖母」…	18
	「病を乗り越え感動を!」……………	19
	「生き様日誌（人生100年に向かって）」……………	20
	「遠く離れた場所からのエール」……………	21
	「私のやりがい。」……………	22
	第12回かながわ感動介護大賞 応募作品の総評 ……	23
	付録 第11回最優秀賞作品 漫画 ……………	24

※作品は、応募者の意向を尊重し、ほぼ表現を変更せず掲載しました。

※介護を受けたご本人・ご家族以外からの作品は、ご本人・ご家族からの承諾を得て掲載しています。



にしび
「西陽のあたる玄関」

海老原 美和様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンディ サロンディリフレ大庭

「お父さん、まだ早いよ。」そう何度、口にしたらろう。

上履きを入れたバッグを斜めがけにして玄関のドアを開け放ち、お気に入りの腕時計を何度も眺めながらいつものイスに座る父。そう、デイサービスのお迎えを1時間前から待っているのだ。

「イヤではないのかな？」

当初、少し家族は不安だったが、そんな心配はまったくいらなかった。家では寡黙な父だが、デイサービスでは、まるで別人のように、たくさんのお仲間と談笑し、歌い楽しんで過ごしていると施設の所長さんや見学に行ったケアマネさんからお聞きした。

私は、そんな極めて言葉少なめな父に言われたひと言が忘れられない。「歳をとると、みんな、お父さんのことを嫌いになるんだね。」悲しい瞳だった。どんどん歩みが遅くなっていく父に、つい「早くして」といつも言っていた愚か過ぎる自分に気づいた瞬間だった。

「お父様、94歳ご立派ですね。」

そう人から言われたことがある。でも私は思う。週3回13:00が来るのを、あんなにも楽しみに待っていた父の幸せな時間を作ってくださったデイサービスの職員のみなさまが立派なのだと。長年にわたり、父への尊厳を大切にしたい関わりで接して下さったからこそなのだ。

西陽が当たる玄関に、もう父は居ない。だが、そこで楽しみに待ち続けた10年間の在りし日の父の姿の思い出は、私たち家族の宝物になった。

今、ちゃんと伝えたい。

「サロンディリフレ大庭のみなさま、本当にありがとうございました。」と。

< 講 評 >

「歳をとると、みんな、お父さんのことを嫌いになるんだね」

この言葉に誰しもハッとします。そんなわけではないのに、つい私たちは歳をとった親に、「早くして」と言ってしまいます。しかし、週3日のデイサービスに、10年間送り出し続けたこと、そのたびに上履きを入れたバッグを準備され、椅子を用意されたり、「まだ早いよ」といいながらも、時折様子を気にかけること。それは一見何でもないことのようにですが、そこには尊厳あるケアがありました。一方で、お父様が別人のような顔を見せられたデイサービスのケアは、専門職ならではのケアです。専門職のケアはしっかりと尊厳を形に表します。ケアもいろいろです。どちらからも、まるで西陽のようなぬくもりが伝わってきました。



「あなたに私の気持ちはわからないわよ」優しく微笑みながらその方は言いました。

私が介護職に就いたばかりの頃のお話です。当時私はご利用者様との会話の糸口を見つけるのに必死で、何でも「お気持ちわかります」と同調ばかりしていました。

ある日、勤務するデイサービスで92歳になる方のお隣に座りました。その方が「最近足腰も弱くなって、歳をとるって嫌よね。」と言われました。私は「お辛いですよね、お気持ちわかります。」といつものように返答しました。するとその方が微笑みながら「あら、あなたに私の気持ちはわからないわよ。だってあなたおいくつ?」「45歳です」と私は答えました。「じゃ尚更ね、だって私は92歳。戦前、戦中、戦後、とてもとても苦しい時代を生き抜いてきたのよ。必死で生き抜いて家庭を持って辛い事ばかりじゃなかったけど、子供達も独立し、主人も亡くなった。今は独りぼっちで死に向かって歩んでるの。身体も弱ってくるしね」私はハッとしました。その方がここまでどんな人生を歩んで来たのかもよく知らず、簡単に同調してしまった事に・・・私はうつむき、言葉を返せずにいました。そんな私に手を添えて「でもね、お互い様よ。だって私は45歳のあなたが今どんな苦勞をしているかわからないもの、だからお互い様」そう言って微笑んでくれました。

言葉の重み、優しさ、それぞれの歩んできた人生。介護職に就く者として大切な事を教えて頂きました。

＜ 講 評 ＞

「お互い様」という言葉が、温かい響きとして伝わってきます。介護では、一人ひとりに合ったコミュニケーションを図ることが求められます。相手の思いに共感しますという気持ちの表現として、「お気持ちわかります」という言葉はよく耳にします。その言葉を受けて、人生の大先輩が発した「あなたには私の気持ちはわからないわ」という言葉に、安易な言葉かけは相手を理解することにつながらないことに「ハッと」します。しかし、その言葉の後に「わたしもあなたのことはわからないのでお互い様」と「お互い様」の言葉とともに、栗林さんに手をそっとおく相手の姿が情景として浮かびます。「わたしも同じですよ」と置かれた手のぬくもりとともに、介護の大切さを伝えているエピソードです。



優秀賞

「たわいもない話」

千田 麻記子様

感動介護を行った職員

あさひ健康福祉サービス株式会社

あさひ訪問看護・介護ステーション

河原 久美子 様

最初の出会いは、父のケアマネジャーとして、今から七年以上前の事です。介護初心者の母にとって、とても心強い存在だったと思います。とても気さくな方で。私が実家へ行くと、リビングから母と彼女の笑い声がよく聞こえました。『たわいもない話』で盛り上がっているのです。途中参加の私でも楽しかったのを覚えています。父が自室に戻っても、ずっと話していて、父が「あの二人はいつまでも楽しそうに話してるぞ」と半分呆れ、半分嬉しそうに言っていました。父としては介護で迷惑をかけているので、母の笑い声は心の支えだったのです。

そして、二年前、彼女と再会です。次は母の介護です。母の強い希望で彼女にお願いしました。電話口から懐かしい声！私は安心したのを覚えています。母のもとにすぐ来て下さり、母がまだ話せる時は三人で、父の思い出話やたわいもない話で、また盛り上がりました。寝たきりになっても、彼女が来るとニコとし、また、たわいもない話を。この『たわいもない話』は他人からしたら、本当に、たわいもない話。でも、父にとっては安堵の時、母にとっては安らぐ時間、私にとっては信頼の記憶。私達家族がどれだけ心を救われたか、感謝してもしきれません。

そして、彼女は最後、残された私に「素敵な家族でした」と言ってくれました。最高の褒め言葉。かけがえのない時間を過ごせました。

< 講 評 >

この作品を通して、介護に携わる専門職が「たわいもない話」を介護している方や介護されている方と楽しくできるような関係作りの大切さを感じました。この「たわいもない話」をする前後では、日々の介護のご苦労や、身体が思うように動かせないもどかしさなどの会話が交わされていたのではないかと思います。お父様の介護を通してお母様が、そして介護される側となったお母様とその娘様が、このケアマネジャーさんとの「たわいもない話」を通じて信頼関係を構築しながら、日々の介護について一緒に考えていかれた様子が短い文章の中から感じられました。またあの人と話したい、あの人に相談したいと望まれる専門職でありたいという思いにさせてくれた作品でした。



優秀賞

「自身に起きた奇跡」

石井 孝之様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンディ サロンディ中野島

「あれ?動く」

ある日、帰宅途中で自分の身に起きた「脳梗塞に依る右足の運動麻痺」

あれからずっと抱えていた「思う様に動けない悩み」を少しずつ改善してくれたのが、現在、週2回お世話になっているサロンディ中野島さんです。

通所し始めた頃は、我が家に帰ると身体中が痛く、家の中を這いつくばって移動していましたが、しばらく通ったある日の家族の「おかえり、今日はどうだった?」の言葉に何の違和感も無く玄関を上がれた自分自身に驚きを覚えました。

今も、毎日、朝と夜の薬は飲み続けていますが、通い始めてからの生活は発病した時とは気分的にも変わり、最近では「手話」の本や市町村開催の手話サークルの情報等をかき集め、わずかにしびれの残る手のリハビリや本を読む事に依る文字能力のリハビリを積極的に行う様になりました。

最初に通い始めた頃は家族への迷惑を掛けてしまっているという気持ちから、お迎えの車に乗るのが、すごく嫌でしたが自分の変化を喜んでくれている家族を見ていると、現在では車が来るのを待っている自分がいます。

本当にお世話になってよかったと思います。

「介護」とは「一人の人が蘇る事を手助けする魔法」だと思います。

< 講 評 >

『「介護」とは「一人の人が蘇る事を手助けする魔法」』…。この絶妙なフレーズには、介護への感謝、期待、そして介護者へのエールがこもっているような気がします。

病を得て身体が思うように動かないことは、自身の心にも大きな影響を与え、そして親しい人間関係にもこれまでにない変化が訪れる…。きっと通所しはじめたころは、先の見えないつらい日々であり、それを見守る家族の心配も大きかったことと思います。デイサービスの介護者にとっても、身体面のサポートとともに心を支え家族との絆を後押しすることが大切な課題だったのではないのでしょうか。「手話」を通して新しい世界を広げる石井さんよりいただいた冒頭の「魔法のような言葉」は、人々の人生にかかわる介護の仕事へのなによりの励みです。



優秀賞

「感謝にあふれた母の人生の最期」

高井 裕子様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人ふるさと自然村

特別養護老人ホーム磯子自然村

「ころんじゃった…」と言って私を見上げる目は、痛いというより悲しい目をしていました。

4カ月程入院した後、何かのご縁で自宅近くの特養に入所することがスムーズに決まりました。入所して3カ月程たった時、ずっと同居していた孫娘の結婚式があり、家族は母の参列を熱望していました。その際、酸素ボンベを車いすに取り付け、少しでも楽な態勢で過ごし移動できるよう細心の注意を払い、施設一丸となって準備に取り組み、その姿はまさに家族そのものでした。帰所後、介護士さんにも結婚式の話を楽しそうにしていたと伺い、私たちも大変うれしく感謝いたしました。

そんな大好きな施設ともお別れの日が近づいてくると、母も私も「ありがとう」という気持ちがさらに強くなってきました。日々弱っていく中でも、うわごとのようにありがとうといっていたことが思い出されます。お別れの会では、浅見さんが母への手紙を涙ながらに読んでくださり、こんなにも家族のように思っていてくれたのだと、改めて感謝いたしました。

介護の現場の大変さを間近に見て、この仕事が心身ともに過酷で厳しいことを実感しましたが、それでも、母のように心からのありがとうを伝えたい存在である事を知ってほしいです。ここで受けた温かい介護と皆様の献身的な愛情に今もなお、感謝の気持ちでいっぱいです。

磯子自然村さんで暮らし、素敵な介護士さんに出会えたことで母の人生の最期は豊かであったと思います。

< 講 評 >

熱望されたお孫さんの結婚式への参列はお母さまにとって何にもかえがたい一日となったに違いありません。施設の生活の中で、「〇〇をしたい」という希望があっても諦めてしまうことも多いと思います。磯子自然村にはそのような思いを支える職員チームがありました。望みを叶えるためのプロセスには、様々な困難があったかと思いますが、職員にとっても大きな学びと喜びになったはずです。介護は決して職員からの「やってあげる」だけのものではありません。利用者の「こうありたい」という思いを受け取り、支える伴走者の役割であると思います。お母さまの人生の最期をともに歩み喜びを分かち合えたからこそ、お別れ会での浅見さんの涙につながったのでしょうか。あたたかな思いの伝わる作品でした。



「思い出すのは」

優秀賞

株式会社アイシマ グループホームほのぼの
田畑 直子様

思い出すのは、冗談を言った時のお顔、A様との出会いはグループホームにて、私より半年早く入所されたA様。「あんた住まいはどこ？」「子どもは？」毎日繰り返される会話。夜勤では「身体辛いだろう？私も昔、夜勤をやってたからわかるよ」夜勤に入ると繰り返される会話。A様と最後の時をすごしてから時間がたつのに、出勤する度、思い出します。

夜間に職員に呼び出され居室に行くと顔をくっしゃとして私を見て笑ったA様「心配させないでください」というと手をしっかりと握ってくれた。お話する事は出来ないけれど、握った手は力強く、離してはくれなかった。その時にもう逝かれてしまうのですねと心の中で会話をしました。手を握った後に「ご家族に連絡してきます」というと手を離されたA様。待っていて下さいね。連絡しますから。A様は眠りにつきました。

次の日ご家族にお会いした後、眠るように旅立たれたA様。息子様に会いたかったのですね。良かったです。にぎやかな事が好きで冗談が好きで時より冗談が過ぎて反省されていた事。怖がりで節分では鬼を見て泣きじゃくってしまった事。沢山の思い出。辛い日も繰り返される会話が私を元気にしてくれ、今でも出勤すると今日も宜しくと挨拶にいきそうになり、寂しくなるけれど私はこの仕事を続けます。

利用者様を一人では逝かせない。それはA様が最後握ってくれた手に全てがつまっています。

本当に素敵な出会いをそして別れを有難うございました。

< 講 評 >

介護福祉の仕事は、毎日毎日繰り返される利用者の生活が、滞りなく続いていくよう陰に日なたに支えていくものです。入浴、排泄、食事などの目に見える介護があれば、心地よく穏やかな気持ちで過ごせるように心や環境を整えるなどの目に見えないものもあります。

Aさんと田畑さんは、毎日の何気ない繰り返しの中で、かけがえない信頼関係を築いてこられたのだと思います。だからこそ、最期のその時に、言葉は交わさなくとも心が通じ、Aさんが望むように旅立つことができたのであろうと、田畑さんの作品からとてもよく感じとることができました。「利用者様を一人では逝かせない」という覚悟をもった素晴らしいケアが、今後も末永く続いていくことを期待します。



佳作

「連絡帳が気づかせてくれたこと」

大石 勝己様

感動介護を行った職員

株式会社ふるさと デイサービスふるさと東戸塚
介護スタッフの皆さん

妻は要介護5です。寝たきりで何もできず何もしません。食事は全介助で、私がスプーンで口に運ぶと食べてくれます。

いつものデイサービスの連絡帳に「お通じがありました。バナナ2.5本分です。お腹スッキリでお昼の御飯残さずいただき完食されました。」と書いてありました。「残さず」という所を読んでテレビドラマのシーンが思い浮かびました。

「兄(あに)さん、もう死んでもエエヨ」「うちは時々心の中でそうつぶやくんじゃ」「じゃが、兄(あに)さんは、どんなに苦しゅうても生きようとするんじゃ」「うちが作るごはん残さず食べるんじゃ」子規の妹、律の言葉(セリフ)です。ここでハッと響くものがありました。

妻は声に出して何も言わないが生きようとして一生懸命ごはんを残さずいただいていたのか。目先の介護に追われている日々。オムツを変えて、着替えて食事をしたらデイサービスに送り出す。間に合ったと一安心。大事なことが置き去りにされていました。

お昼ごはん残さずいただいたのは、妻が生きようとして食べている姿なのかも。そう思うと胸が熱くなる思いがする。妻は「生きようとしよるじゃ」その妻が愛しい。いつも御飯たべさせ食べるのが当たり前と思っていた私です。「あなたは生きようとして一生懸命に食べていたのですね」そのことに改めて気づかせていただきました。それが、デイサービスふるさとさんのいつもの様子を伝えて下さる「連絡帳」のおかげさまで。ありがとうございます。そしてデイサービスふるさとさんのスタッフの皆さんに感謝いたします。

佳作

「念願だった孫の結婚式に出席できた父」

建石 哲男様

感動介護を行った職員

有限会社在宅ナースの会 看護小規模多機能型居宅介護
(複合型サービス) ふくふく寺前

加藤 幸子様 小菅 勉様

ようつゐ あっばくこせつ
腰椎圧迫骨折をきっかけに10か月も入院していた父は、深くて大きな褥瘡じょくそうがあり、退院後がなかなか見つからなくて困っていました。ただ「ふくふく」の方の「褥瘡は治してあげられると思う」との言葉に感激し、その言葉に勇気を頂いて、私達家族の本格的介護生活が始まりました。そして心のこもったケアと温かい励ましのお陰で、ほとんど寝たきりだった父も歩行器を使って自分でトイレに行って排泄できるようになり、生きる自信を取り戻し、さらにずっと治らなかった褥瘡も訪問診療の先生とあつという間に殆ど治してくださいました。

また、父の長い入院生活を支えていたのは、「孫の結婚式になんとしても出席したい」という強い思いでしたが、入院後半には「出席は無理、残念」と孫に手紙を書き、諦めていました。

ところが、退院後一か月後の結婚式に「看多機だからできることだから」と、礼服を着せ、父を車いすに乗せて、披露宴へ連れてきて下さったのです。久しぶりに親族とも会し、そして一口大に工夫されたフルコースの食事「美味しい」と一緒に楽しむこともできました。

さらに、内緒でお祝いの色紙も施設で父と一緒に作って下さっていて、脳梗塞の後遺症で失語症の父が、色紙を直接孫に渡しながらか、お祝いの気持ちを伝えられて嬉しそうにしている姿を見て、施設の方々の温かい気持ちと心意気を感じられ、思わず涙がこぼれました。その時の写真は父の宝物です。

「本当にありがとうございました。」

佳作

「デイサービスは神様です」

足立 久代様

感動介護を行った事業所

株式会社サロンディ サロンディ鶴沼神明

うれしいナ。楽しいナ。今日はデイサービスの日。

でも、ベッドから降りた時、お尻・足・腕・指、その日によって痛みは違います。痛みは薬で治りますが、身体が曲がって歩きにくいので「マイカー・ベンツ」シルバーカーを使っています。今日は休もうかと思っています。と、運転手さんの元気な声の電話が入ります。「8時半にお迎えに行きます。」私も元気になります。施設に着くとスタッフの皆様が笑顔で迎えてくれて、来て良かったと思います。

座って体操・機械を使った運動を手取り、足取りで進めて行く中、隣り同士のおしゃべりに大爆笑、クイズで頭をひねり、出来た時の達成感は格別です。

この頃、エレベーターが止まり休もうかと思っていた所、所長さんと運転手さんが階段に昇るのをサポートして下さり参加する事が出来、感謝しています。

また、デイサービスに入った頃、急に痛みが出た時、病院に車で連れて行って頂き有難く感じた事も有りました。

私は唄が好きです。帰る時いつも、都はるみの「さよなら、さよなら元気でいてネ」と唄います。すると物静かで休みがちな方がいっしょに唄い出しました。「きれいな声ネ」と言って送迎車の中で唄っています。今、童謡、昭和の唄を書いて差し上げようと思っています。「唄って頑張ろうネ。」

私も少しずつ体が良くなってきています。もうひとつの楽しみは500メートル離れたスーパーに、愛車ベンツで休みながら、おつかい散歩をする事です。

佳作

「楽しい人生になったよ。ありがとう」

中村 秋子様

感動介護を行った事業所

一般社団法人インクルD ワークステーション蒼組

2018年9月27日、息子の誕生日、この日私は職場で突然倒れた。脳出血、左半身が麻痺になり、車いすの入院生活となった。今まで一人で出来た事が人の手を借りないと何一つ出来ない。頭の中は真っ白、何も考えられない。何とかリハビリを重ね、杖で歩けるまでに回復した。

3年が経ち、今では近くのスーパーやコンビニまで買い物に行けるようになった。ある日、3歳の孫が折り紙をもってきて「何か作って」とせがまれ、鶴を折った。片手で折った鶴を見た息子に「千羽鶴を作ってみたら」と言われ、2ヶ月間一人で折り、完成することが出来たとき、片手でも何か作れると自信がついた。そんな時、自宅の近くに新しく開所したデイサービス「ワークステーション蒼組」さんでは作業も出来、外にも連れて行ってくれると聞いて、すぐにケアマネの赤尾さんに連絡し、通えるよう調整してもらった。ドライバーさんの安全な送迎でスタッフさんと春は桜、夏は太陽の熱さと青い空、秋は紅葉、冬は木枯らしと師走の忙しさを肌で感じ、正月には初詣といつもいろいろなところに連れて行ってもらっている。入浴もシャワーを浴びることしかできなかったのが湯船に入れてもらい、体が温まり気持ち良かった。

今では一人で散歩をすることが出来、片手でビーズストラップ、ミシンで巾着袋やティッシュケース、鉤針でネックウォーマーを作るなどたくさんやれることが増えた。麻痺になってから人生の目的もなく過ごしていたが、デイサービスに行くようになり、皆とも会話して交流が出来ていろんな経験もして、人生が楽しくなっている。

これも私を支えてくれる家族、そして何より介護従事者の皆様からありがとうと伝えたい。

佳作

「笑った！」

大信産業株式会社
看護小規模多機能みのり大岡
梅澤 律子様

Aさんは退院後に看多機を利用することになりました。無表情で目線が合わず、自宅に帰ることを望んでいない様子。高齢の母親と二人暮らし、失語、右麻痺、要介護4、高次脳機能障害。毎日看多機に通いながら時々宿泊・・・無表情ながらも少し緊張が解けてきたのは1ヶ月が過ぎた頃でした。レクリエーションで職員がしり取りを始めた時のこと。職員と利用者が漫才のような掛け合いをしながら進みます。「リンゴ」「ゴリラ」「ラッパ」→「はい、Aさんの番！」と職員が振るとAさんの弾けるような笑顔。「アッ、Aさんが笑った！」周りの全員が驚き感動しました。

益々馴染んでいかれたAさん、「カフェオレにしますか？ココアにしますか？」→「コ・コ・ア」→「Aさんがしゃべった！」「Aさん、トーストのジャムは何にしますか？」→Aさんがマーマレードのカードを指すも職員は「いつもマーマレード、今日はチーズね。」→Aさん苦笑い。代弁させていただければ「じゃあ聞くなよ」。

節分の豆まき、鬼に扮した職員に紙を丸めて投げます。Aさんは無表情も目で鬼を追っていました。隣に座っていたBさんに職員が「Bさん、鬼より奥さんが怖いよね(失礼ですが)」と言うと皆の笑い声とAさんの大きな笑顔。

Aさんと共に生活する中で楽しい時間が持てるようになったことは、私たちにとっては何ものにも勝る宝物です。

Aさんが笑った！その笑顔大切にします。

※看多機・・・看護小規模多機能型居宅介護事業所

佳作

「最後までお酒を愛し、笑い声を絶やさなかった祖母」
本多 佑太様

感動介護を行った事業所
医療法人社団五輪会 厚木東クリニック
有限会社エス・シー・プランニング ケアサポート上依知

祖母が突然喋れなくなった。原因は10年前にも発症した「脳梗塞」の再発だった。

入院したものの、病院にずっといる事は無理だ、祖母を今後どうしていくか？そんなことを考えていた今年の春頃、ケアマネに「在宅で看取るのは楽ではない。でも後悔しないと思う」その言葉が私の決意を固めた。

しかし、父は猛反対。でも、祖母は帰ってきた。はじめは不器用だった私も、看取りの日々が進むにつれ、心が通じ合うようになった。

何よりも訪問サービスの介護士、ナース、ドクターたちのサポートがとても心強かった。祖母と言葉を交わせなくても、その瞳にはたくさんの思いが詰まっていた。介護をする時は「お願いします」「ありがとうございます」を忘れることなく、声をかけた。

最期の日、訪問医に相談した、お酒を嗜んでもらった。最期の息遣いに痛みや苦しみを思わせることはなく、息を引き取って逝った。私はしばらくしてから涙があふれた。苦しさで悲しさが交錯する中で、生の尊さを感じた。そして、福祉サービスも大きな支えだった。ケアマネやナース、ドクターには尊敬の念を抱いた。彼らの尽力で、より穏やかな最期を迎えることができた。看取りをした短期間で幾度となく予想外の出来事があり、その度に祖母の人生の選択肢を迫られる。

これからは、地域の支援やサービスの重要性を広く知らせ、大切な家族との別れをサポートしてくれた感謝と尊敬の念を持つ人が増えることを願う。

佳作

「病を乗り越え感動を！」

宇佐美 雅子様

感動介護を行った職員

株式会社サロンデイ サロンデイ小田原

岩崎 理絵様

80年の人生の中で衝撃的な出来事に遭遇しました。まずは交通事故！
胸骨7本骨折。そして、放射線照射で治癒したガンがまだ残存していた。「悪性リンパ腫」の再発。入院、化学療法7回と私の大好きなサロン
デイはどんどん遠ざかって行く。でも私は何ヶ月かたって復活しました。

その時の機能訓練士のIさんの優しさにネガティブだった私は思わず
涙しました。抗ガン剤の副作用で手足のしびれや身体のふらつきがある
が、Iさんの指導で歩行練習が始まる。彼女の左手はしっかりと私の
背を支えて下さる。よろけそうになるとその手に力が入る。失敗かなと
思ったが「よくこらえましたネ」と褒めて下さる。たまにクリアした時は
「うさみさん、パーフェクトです！」と手をたたいて喜んで下さる。私は
この瞬間が大好きです。

もうひとつ、方向変換があります。最近は徐々にむずかしくなってきました。
Iさんの組み立てた、ちょっと意地悪なコースに、ファイト！と心に
叫びながら、通り抜けます。完走した時は皆さんの声援はもちろん、
Iさんの笑顔に次も頑張ろう！この感激を又、味わいたいと心の中で
誓う私がいました。

過去に辛い思いをして、寂しさと一人暮らしの孤独と戦っていた私は
もういません。サロンデイで得た感動とチャレンジ精神に燃えている
私がいいます。

所長様、Iさん、ナースのYさん、そしてヘルパーさん、これからもお願い
します。私は感動を再度求めて出番を待っています。

佳作

「生き様日誌(人生100年に向かって)」

樋口 幸夫様

感動介護を行った職員

株式会社SOCIAL LAB セラピストデイ菅生

幸田京子様 他 スタッフ一同様

老人施設は厄介者の最期の場合と心得ていた矢先に、地域包括支援
センターの紹介でリハビリ型デイに通所した。

入所して仰天。ドアからドアの送迎から、全スタッフが高齢者の手取
り足取り寄り添う姿に触れ感激。障害者が一寸でも椅子から立ち上がる
素振り等すると「〇〇さん、どうします！」と駆け寄り、用立てする
他。水分補給伺い等、氏名点呼のうえ、機敏な言動に加え、管理者は
常時現場の様子に目配りし、手薄な所へ駆け寄り、スタッフ共々介護に
当たる姿はパワハラでなく明るく仲良し家族。で、全施策の効果を高め
ている。入所者同士の疎通は少ないが、先日の席替えを機に、同席6人
の対話に心掛けたり、誕生祝いや口腔体操を通じ、老化の速度を緩和
している。

私が、この見事な様子に刺激され書き始めたのが「生き様日誌」で、
今2年目を書いている。内容は健康とその対策が主で、或る時、管理者
の目に触れ、スタッフに紹介された。私は100才で、成長した孫と一緒に
読み返すのを楽しみに書き続ける。麻生区は、昨年日本一の長寿
地区となり、更に健康寿命を延ばすべく努力している。足腰の不自由な
私を見て周囲の人は介護認定を受けたらと勧めるが、まだ当面は介護
予防で頑張ろうと思う。お蔭様で今は、寝たきり妻の介抱や風呂掃除、
洗濯物の処理、ゴミ出し場の手入れ等、椅子や手摺に頼りながら、日課
としてこなせるのも、この日誌を通じ励めるからです。これも総て全
スタッフの感動介護の姿のお陰です。ありがとう。

佳作

「遠く離れた場所からのエール」

金子 翔様

感動介護を行った事業所

社会福祉法人弘和会 たきのーほーむ風和里(石川県)

能登半島地震の被災地に福祉職員の派遣で1週間いくことになった際のエピソード。自分が行ったのは石川県羽咋市。

普段は障害分野で働く自分は介護未経験。

色々な意味で右も左も分からないまま高齢者の介護施設で派遣ボランティアを行うことに。

分からないことも多く色々な経験をさせてもらいました。

その中で、思い出深いエピソードがあります。

ちょうどセンバツ高校野球がやっていて、石川県の星稜高校が勝ち上がっていました。職員さん利用者さん皆で応援していましたが負けてしまいました。

その際、輪島市から羽咋市に避難していた利用者さんが何を思ったのか？

「星稜高校が負けたので、私は輪島に帰ります！」と言い荷物をまとめて外に出て行こうとしました。

どうしたら良いか分からず、職員さんに「あの利用者さんが星稜高校が負けたので輪島に帰ると言ってます！」と伝えると「分かった！私に任せて！」と言い、その利用者さんに一生懸命何か話して、その数分後、その利用者さんは部屋に戻ってきました。職員さんに「なんて言ったのですか？」と聞くと「星稜高校は松井(秀喜)が2人いないと甲子園優勝は無理よ…」と諭した！と言われてた。

教科書的な介護支援ではなく、人情味溢れる地方独特の支援は目からウロコが出る思いでした。

能登半島地方が1日でも早く日常を取り戻して日本全体が活気づいたらと思い投稿致しました。

佳作

「私のやりがい。」

社会福祉法人伸生会 平塚特別養護老人ホーム

栗本 徹也様

私が施設介護をはじめた時は、利用者の対応がうまくいかなかったり、職員が少なくバタバタする事が多くミスすることもあり自分は向いていないのかなと悩んでいました。

そんなある日、利用者さんを介助していた時に「あんたは辞めないでくれよ」と言われました。「どうしたんですか？」と尋ねると「職員さんがいなくなると淋しいんだよ。あんたのようないつも明るくて優しい人がいてくれるだけでうれしいんだから、辞めないでくれよ」と言われました。

言われるまで私は利用者さんに対してうまく対応できなかったりしていたことを気にしていましたが、その言葉に勇気づけられ失敗してもめげずに明るい対応を心掛けるようになりました。

やがて周りの職員さんも気にかけてくださるようになり、私も仕事に少しずつ慣れていき介護の仕事を楽しいと感じるようになりました。

その利用者さんももうご逝去されいませんが、今でもつらいことや大変な事があるとその時言われたことを思いだし乗り切っています。その利用者さんのおかげで私は介護の仕事を約10年続けていく事ができました。

第12回 かながわ感動介護大賞 応募作品の総評

2024年は、1月に能登半島地震があり、介護を必要とする方々に対して神奈川県内の介護現場からも支援のための介護職等の応援がございましたが、厳しい現状は続いております。

そのような中、今年度の本大賞へのご応募は、ご本人(34作品)・ご家族等(13作品)の皆さまから47作品、介護現場の職員の皆さまから17作品、計64作品がございました。心温まる作品ばかりで審査員も選考過程の中で悩みながらの選考でございました。

ご本人の皆さまの年齢別では80歳代の応募が最も多く(19作品)、50歳代から93歳まで幅広い応募があり、デイサービス等の利用が生きがいに繋がっているエピソードも多くございました。

ご家族の皆さまからは、在宅介護を支えてくださる皆さまへの感謝と感動の涙のエピソードが多く、また、入院中のいろいろなご説明につらい思いをされたご家族が、退院後にケアマネジャーの方を始め在宅介護を支えてくださる方々のご支援で、ご本人の認知症の症状を「ポジティブに生きる力」ととらえ、明るく展開される在宅介護の感動のエピソードもございました。

そして職員の皆さまからは、利用者様との出会いと、かかわりの中で生まれた「利用者様への想い」等々、本当に心温まる作品ばかりでございました。

不安定な情勢が続き、多くの方々が大変な思いをされながらも本大賞に心をお寄せくださり、また、趣旨をご理解くださり協賛いただきました関係者の皆さま、広報等でご尽力いただきました皆さまに、改めて心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

来年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

かながわ感動介護大賞選考会座長 大島憲子

付 録

かながわ感動介護大賞の
最優秀賞作品を漫画化したので、
ご紹介します!

令和5年度
第11回かながわ感動介護大賞



中山 恵美代様

「介護の女神」

(漫画:ちべた店長)

漫画は、Instagramでもご覧いただけます。

福祉関連情報や「かながわオレンジ大使」(認知症本人大使)の活躍についても発信しているので、ぜひフォローしてください!

かながわ感動介護大賞
公式Instagram

フォローはこちらから▶▶▶





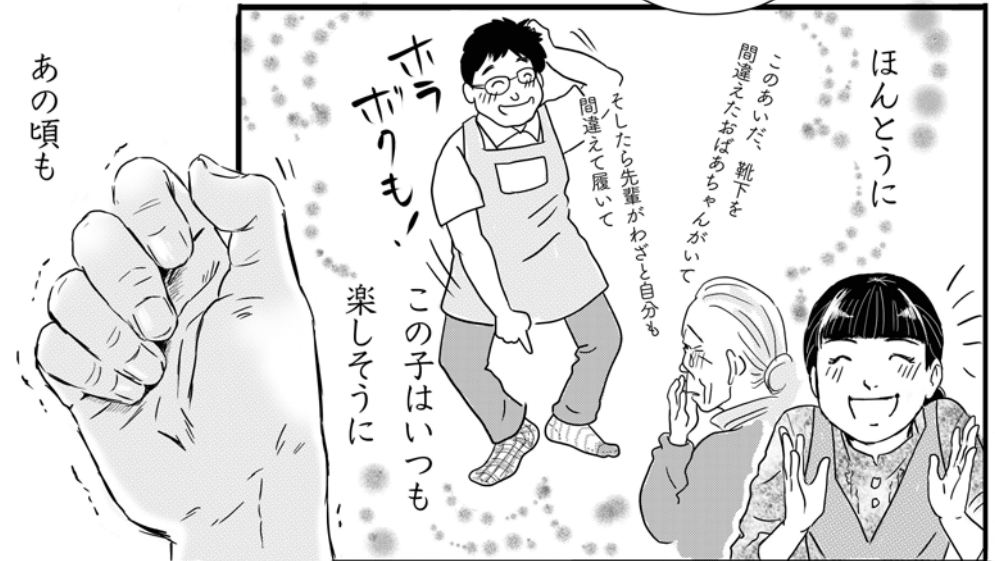
①



②

←

←





パチンコ・パチスロの
神・遊・協
KANA-YUKYO
神・福・協
KANA-FUKUKYO

神奈川県遊技場協同組合
・神奈川県福祉事業協会



公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会



公益社団法人
横浜市福祉事業経営者会

株式会社サロンデイ



社会福祉法人 横浜長寿会

一般社団法人 神奈川県老人保健施設協会

株式会社えひめ飲料 東京工場

川崎市老人福祉施設事業協会

一般社団法人 神奈川県高齢者福祉施設協議会

社会福祉法人 神奈川県匡済会

公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会

社会福祉法人 富士美

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部神奈川県済生会

社会福祉法人 相模翔優会 特別養護老人ホーム ル・リアンふかみ

公益財団法人 神奈川県老人クラブ連合会

社会福祉法人 竹生会

社会福祉法人 二津屋福祉会 ロゼホームつきみ野

※協賛団体一覧及びロゴは、各協賛団体の希望する方法で掲載しています。ご協賛いただきありがとうございます

随時受付中! 感動介護エピソード募集

※ 詳しくは、県ホームページ

「かながわ感動介護大賞エピソード募集」をご覧ください。

※ インターネットからも応募できます。

